

2012 北海道トレセン U-14 後期キャンプ

【報告者】 新谷 和彦
所 桂太郎

2012年8月25日～27日

会場：札幌東雁来運動公園

宿舎：トレーニングセンターハウス「夢きたれ」

財団法人
北海道サッカー協会

高い質を求め 常に課題を追究

1.事業の概要

北海道トレセン U-13/14 後期は、8月25～27日、札幌市東雁来公園を会場に、8月上旬の各ブロックトレセンを経て選考された選手92名が、将来世界で活躍することを目指し、プレーの質の向上を心がけながら、キャンプに参加した。

各カテゴリーともナショナルトレセンのメニューを中心に、北海道の目指す方向や課題、ジャパニーズウェイを意識しながら、トレーニングやゲームに取り組んでいた。



<各ブロックの選手数>

ブロック	FP	GK	FP	GK	合計
	U-14		U-13		
札幌	10	6	13	6	23
道南	6		7		13
道央	3		4		7
道東	5		7		12
道北	3		4		7
Jクラブ	9		9		18
選手計	36		6		44

2.守備

ナショナルトレセンでの守備のセッションは、常に観て判断して適切にコーチングしたり、適切なポジショニングをとったりすることが以前よりも要求され、そういう経験が少ない選手達(や指導者)にとっては難しいものとなっている。北海道トレセンでもナショナルトレセンのトレーニング内容をベースにトレーニングを実施したが、ナショナルトレセン同様、様々な課題が見受けられた。まず守備の目的はわ

北海道での一貫指導をブロックトレセンから！！
日本代表とオリンピック代表を2015年までに輩出する！！
和歌山国体(2015)までには優勝を！！



かっけていてもそこから逆算して優先順位を整理できていない。背後を守らなければならないのに適切なマークの位置がとれず、結果として背後にボールを運ばれ

てしまう選手や、ボールの逆サイドに大きなスペースを与えてしまう選手、奪いにいく意識が強すぎて、数的不利な状況でも強く奪いにいってしまい、パスで突破されてしまう選手などが見られた。また、コミュニケーション不足でマークの受け渡しがうまくいかずにフリーにしてしまったり、マン・ツー・マンでマーキングして相手と一緒に大きく動いてしまい動かされてできてしまったスペースを利用されてしまったりすることもあった。トレーニングに時間をかけたため、最終日のゲームでは改善が見られたが、各ブロックや各地区でのトレセンで今後とも十分に守備のトレーニングを積み上げていく必要があると感じた。

- ポジショニングの修正が遅く、1つ2つボールが動く
と相手にギャップやスペースを与えてしまうことが
多くみられた。
- 攻撃側にモビリティが出てきたときに、ポジション
を取り続けられない選手が多かった。
- ボールサイドでの意識は非常に強くなっていった
が、逆サイドの選手の意識にさらに働きかけな
ければならなかった。
- 自分たちで積極的にコミュニケーションを取り、常
にコーチングの声を出し合って意志を伝えられる。
U14であれば、キャンプに来る時点で最低限出来
ていてほしいこと。



4. 攻撃



ボールを失わないようにフィニッシュまでつなげることが求められている。今キャンプでも攻撃目標を意識しながらポゼッションするトレーニングを行った。トレーニングを見ていると、まずゴールを観て判断する前にとりあえずなんとなく動いたり、適切な高さ(深さ)を考えず、とりあえずボール保持者に寄ってサポートしたりするような、どこに立てばよいのかが判断できない(あるいは判断できても遅い)選手が多かった。守備同様、攻撃の目的から逆算して優先順位を考え、それを基にしたポジショニングがとれるように指導していくと共に、攻撃のベースとなるパスとコントロールの質のレベルアップがさらに必要であると感じた。

- ドリルでは、コントロールの精度が低く、結果として正確なパスにつながらない選手が多かった。また、全体的にテクニックに個人差が大きい。最終日に分けたABとCとでは大きな差を感じた。(普段のトレーニング環境?)
- トレーニング(4対4+1F)では、動きすぎてバランスをくずし、フリーマンを生かしきれない場面が見られた。
- ゲームでは、攻撃への切りかえの場面でのポジショニングが遅く、特に逆サイドの選手のポジショニングを意識できずにいる場面が多かった。

